

金沢市立兼六小学校

〔はじめに〕

本校は、金沢市の中心部旧市街地に位置し、平成28年4月より旧材木町小学校と旧味噌蔵町小学校が統合し兼六小学校として開校した。全校児童は447名、教職員は35名である。

校区には、金沢城公園や兼六園が含まれ四季の変化や素晴らしい景観を感じることができる。自然や歴史が残る卯辰山と浅野川の流れにも面しており、金沢の伝統文化や伝統工芸、それに携わる方々が今もたくさん残っている地域である。また、高齢者の方が多く住まれ郷土愛に満ち、公民館活動をはじめ地域の諸団体による子どもたちの育成活動は盛んである。

今年度もユネスコスクールの認定を受け、環境や伝統・文化を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

つなぐ！ あすの兼六へ

～ かんじて ひびいて うごきだす ～

1 ユネスコスクールとしての取組

1年 「浅野川となかよし」「昔遊びの会」

浅野川での川遊びや秋の発表会などの季節に応じた活動を通して、身近な自然に目を向けたり、季節の変化を楽しんだりする様子が見られるようになった。地域のお年寄りから、昔遊びの技や楽しみ方を教えてもらったことで、昔遊びの面白さに気づき、練習に夢中になった子が多かった。また、身につけたことを積極的に人前で披露する姿も見られた。(生活科：30時間程度)



2年 「野菜を育てよう」「町たんけん」「1年生と川遊びに行こう」「町の名人さん」

一人一鉢でミニトマト、学級園でキュウリ、オクラ、カボチャ、スイカ、サツマイモなどの野菜を育てた。それらを収穫し調理して食べる活動を通して、栽培の大変さや収穫の喜びを感じていた。また、自分たちの町を紹介し合い探検したり、名人さん探しをして一緒に活動したりする中で、いろいろな場所があり温かい町の人がいることを知り、自分の地域の楽しさや美しさ、児童館などの公共施設でお世話する人の活動や気持ちを知り、自分たちの町への愛着を持つことができた。(生活科：48時間程度)



3年 「金沢の和菓子文化を学ぼう」～金沢のお茶と和菓子～

金沢は和菓子消費量が日本一であることを知り、「なぜ日本一なのかひみつを見つけよう」という学習課題を持ち、金沢の和菓子について調べた。金沢に伝わる風習や季節の行事と和菓子について調べた中で、和菓子は茶道とともに発展してきたことを知った。そこで、校区にある7軒の和菓子屋を訪問し、直接職人さんやお店の方にインタビューしたり体験をしたりすることで、和菓子について主体的に学んでいった。そして、季節感やお客さんを大切に、どの店もいろいろと工夫をしていることに気づくこともできた。

また、自分で抹茶碗を作り、自分で作った和菓子とともにその茶碗で抹茶を頂いた。和室での作法やお茶の頂き方などを知り、金沢ではお茶文化とともに和菓子文化が愛され、伝承されてきたことなどを学んだ。

その後、和菓子消費量が日本一であるにもかかわらず、和菓子消費量はこの10年間で減っていることを知り、大変驚いていた。そこで、売るための工夫を考えたり、和菓子屋さんのポスターを描いたり、参観日に保護者で伝えるなどして自分たちにもできることを考え取り組んだ。子どもたちは和菓子を身近なものとして捉え、金沢の和菓子文化を大切にしていきたいという思いを持つことができた。



4年 「伝統工芸を学ぶ」

金沢の伝統工芸「加賀友禅」について、校区の友禅作家である新納さんから「下書き→下絵→糊置き→彩色→中埋め→水元」の工程を指導していただき、体験を通して、それぞれの工程で使う道具の名前、使い方、気をつけることなどを学び、作品を仕上げた。その後、伝統を守るための工夫を5人の作家さんにインタビューし、グループごとに整理・分類してまとめ、自分たちができることについて考えていった。

さらに、学んだことを「工程」「歴史」「これからの加賀友禅」といったテーマごとのグループでまとめ、保護者に向けて発信した。これらの学習を通して、加賀友禅のすばらしさを誇りに思い、大切にしていきたい気持ちを持つようになった。



5年 「自慢できる浅野川にしよう」

5年生は、まず自分たちの校区にある身近な浅野川の自然環境について調べる計画を立てた。実際に浅野川の様子を観察した子どもたちの間では、浅野川はきれいかきれいでないか意見が分かれた。自分たちが見た事実とその理由を話し合う中で、川の水の生き物調べと水質検査、ゴミ調べを行うことになった。

浅野川に生息する生き物調査では、川底や石に付着している生き物を採集して指標と比べたり、パックテストをして結果を分析したりした。科学的な調査の結果、浅野川の水はきれいという結果になったが、子どもたちには身近な浅野川を自慢できる川にしたい思いがあり、「ゴミが落ちていたから完全にきれいではない」「下流の様子も調べたい」「他の川と比べてみたい」と新たな課題が生まれた。今まであまり気にしていなかった浅野川について、様々な思いを持つことができた。

終末には、自分たちはこれから浅野川をどんな川にしたいか、そのためにどんなことができるかを考え実行した。一人一人が浅野川と向き合い、地域の一員としてよりよい環境をつくっていかうという意識を持つことができた。



6年 「金沢の“世界に誇れる魅力”を発信しよう ～KJMプロジェクト～」

世界的な観光誌「ロンリープラネット 2014」の記事で、行ってみたい旅行先の世界第4位となった金沢や北陸地方。「何を目的に?」「金沢ってそんなに魅力的?」という意識から学習がスタートした。

5年生までに見つけた魅力の一つである加賀宝生を県立能楽堂で発表し、伝統芸能を継承していくことの大切さに気づくようになった。また、姉妹校の名古屋市立荒子小学校の児童に、調べた金沢の魅力を伝えたいと、百万石まつりや前田利家、地域にある観光名所等を調べパンフレットにまとめた。交流会当日は、兼六園や金沢城、ひがし茶屋街、金沢21世紀美術館等を実際にガイドしながら魅力を伝えた。さらに、金沢を訪れている国内外からの観光客が感じていることを直接インタビューし、生の声を調査した。自分たちが当たり前だと思っていた食のおいしさや風景の美しさが大きな魅力だということや、人の優しさや新幹線効果の大きさも新発見することができ、自分の校区や金沢を誇りに思う気持ちを強くすることができた。



2 ユネスコスクールとしての成果と課題

① 人と人とのつながりから、社会・自然・世界とのかかわりを深める

今年度、統合により校区が広がったが、これまで同様、学年に応じた地域の町並みや文化、伝統産業とかかわる体験活動を実施し、学年があがるにつれ地域に愛着や誇りを持つことができるようになっていく。また、古くから受け継がれてきたものを支え守り続けてきた人たちの思いや願い、環境を維持し守っていくとする人たちの取組にもふれる学習をこれまで以上に大切にしたい。

② カリキュラム作成上の工夫

体験活動については、校区のよさを十分生かし充実したものになっている。しかしながら、地域の環境や人の思いに触れ、もっと主体的に「このままでいいのか」「維持するにはどうしたらいいか」「これからどうしていけばいいか」など、より強く意識し行動に結びつけることのできる実践力を身に付けるための単元計画、指導の工夫について、今後さらに充実させていく必要がある。

③ 発表の場の工夫

今年度は、発信・交流の場を授業参観に限らず、必要な時期に適した相手に対して行うことができた学年があった。対話力を向上させ、意見を聞いたり新たな情報を得たりする機会にしていきたい。